

2020 年度秋学期東京学芸大学「日本理解」「多文化共修科目」時間割・授業概要

2020 年 9 月 28 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:50- 10:20					日本理解 F/ 多文化共修科目 F 社会 (加藤拓)
II 10: 30- 12:00					日本理解 D 人文 (千田洋幸)
III 12: 50- 14:20		多文化共修科目 D 世界の民族と文化 (有澤) [N313]		日本理解 B 教育 (遠座知恵)	
IV 14: 30- 16:00					日本理解 H 芸術 (石井健)
V 16: 10- 17:40				多文化共修科目 B 多言語社会とコミュ ニケーション (岡智之) [N313]	

- * 「多文化共修科目」は、学部の正規生（主に日本人学生）が履修できる CA 科目として同時開講されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会の多様性について、学びを深めることを目的としています。
- * 「日本理解」は、留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。
- * 「日本理解 A・C・E・G」「多文化共修科目 A・C・E」は春学期に開講されます。
- * 日本理解 F と多文化共修科目 F は同じ科目です。

授業科目名	日本理解B：教育
担当教員	遠座知恵 (えんざ ちえ)
ねらいと目標	歴史的な視点から日本の教育について学び、その特徴に対する理解を深めていきます。
内容	古代から現代までの「学校」に注目しながら、日本の教育の特徴について学んでいきます。日本は古代から海外の影響を非常に受けて発展してきた国であり、教育についてもその例外ではありません。この授業では、それぞれの時代に、海外の影響を受けながら、日本でどのような教育が行われてきたのかを紹介していく予定です。
テキスト	とくに用いません。
参考文献	必要に応じて読みやすい参考文献を紹介したいと考えています。
成績評価法	コメントペーパーや授業での発言内容 (50%)、学期末レポート (60%) で評価を行います。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 古代の教育 3. 中世の教育 4. 文字社会の成立 (近世) 6. 近世の教育 1 (手習いの教育) 7. 近世の教育 2 (学問の教育) 8. 近代の教育 1 (近代教育制度の特質) 9. 近代の教育 2 (西洋近代教育法の受容) 10. 近代の教育 3 (幼稚園と幼保二元化問題の成立) 11. 近代の教育 4 (義務教育制度の成立と教育の国家統制) 12. 近代の教育 5. (海外の新教育運動と大正新教育) 13. 現代の教育 1 (戦後の教育改革) 14. 現代の教育 2 (近年の教育改革) 15. 現代の教育 3 (近年の教育問題と教師の課題)
授業時間外における学習方法	
授業のキーワード	
受講補足 (履修制限など)	
学生へのメッセージ	海外の影響や比較的な視点を交えながら日本の教育をとらえていく授業なので、受講者の皆さんも自国の教育と比べてみてください。
遠隔授業形態	Teams で同期型の授業を行うことを基本とする。ただし、初回オリエンテーションは Webclass を通して行い、その後も数回 Webclass を活用することがある。

授業科目名	日本理解D：人文
担当教員	千田洋幸 (ちだ ひろゆき)
ねらいと目標	主に 1990 年代以後のアニメを中心とするポップカルチャーを取り上げながら、日本の文化・社会のあり方について考察していきます。
内容	前半は、ここ 20～30 年ほどの定番アニメ作品を取り上げ、その思想的系譜をたどっていきます。後半は、ポップカルチャーについて考える際に欠かせない「オタク」「キャラクター」「腐女子文化」「2.5 次元文化」等について考えます。
テキスト	全て教員の方で用意します。
参考文献	授業時に指示します。
成績評価法	平常点 50% 学期末レポート 50%
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクション 2. 1980 年代から 90 年代へ (『美少女戦士セーラームーン』など) 3. 1990 年代アニメについて① (『新世紀エヴァンゲリオン』など) 4. 1990 年代アニメについて② (『少女革命ウテナ』など) 5. 2000 年代アニメについて① (『涼宮ハルヒの憂鬱』など) 6. 2000 年代アニメについて② (『けいおん!』など) 7. 2010 年代アニメの展開 (『魔法少女まどか☆マギカ』など) 8. 「オタク」という社会現象 9. ボーカロイドとキャラクター概念 (初音ミクその他) 10. 美少年の文化 (『テニスの王子様』『ユーリ!!! on ICE』など) 11. 宮崎駿の世界 (『風の谷のナウシカ』『千と千尋の神隠し』など) 12. 災害とポップカルチャー (AKB48、『シン・ゴジラ』『君の名は。』など) 13. アニメの中のアイドル (『ラブライブ!』など) 14. アニメ表現の現在 (『響け! ユーフォニアム』など京アニ作品、新房昭之作品、新海誠作品など) 15. 試験
授業時間外における学習方法	開講前に、『美少女戦士セーラームーン』『新世紀エヴァンゲリオン』『涼宮ハルヒの憂鬱』『魔法少女まどか☆マギカ』『ラブライブ!』等の著名なアニメ作品に多く触れておくと、授業にスムーズに参加できます。
授業のキーワード	
受講補足 (履修制限など)	授業時に出席を確認します。
学生へのメッセージ	
遠隔授業形態	基本的に、Zoom を使用して同期型の授業を行う予定。第 1 回の授業 (10/16) については前日までに WebClass で連絡するので、忘れずに参照してください。

授業科目名	日本理解 F : 社会 / 多文化共修科目 F
担当教員	加藤 拓 (かとう たく)
ねらいと目標	日本社会を、商業、とりわけ小売業、サービス業がどのように流通網を築いているかという観点でとらえる視点を養うことを目的とする。
内容	日本の商業環境の現代史を概観しつつ、日本市場の特性、大手小売業・専門店・サービス業の出店判断の考え方を概説する。
テキスト	特に使用しない。資料等を随時共有します。
参考文献	随時紹介します。
成績評価法	参加人数によるが、①平常点（出席点）、②企業分析のレポート・プレゼンテーションを予定しています
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の全体像の説明、日本の地理的特徴と商業地 2. 小売業の分類①、大型商業施設を運営する企業とその店舗網 3. 小売業の分類②、テナント企業とその店舗網（ドラッグストア、スーパーマーケットほか） 4. 小売業の分類③、テナント企業とその店舗網（専門店・外食産業） 5. 小売業の分類④、テナント企業とその店舗網（サービス・リテーラー） 6. 商業環境の変遷①1970年～2000年 7. 商業環境の変遷②2001年～2020年 8. 小売・サービス業の出店判断①立地、市場分析の方法 9. 小売・サービス業の出店判断②地理的拡大の方法 10. 小売・サービス業の企業分析①企業業績の見方 11. 小売・サービス業の企業分析②JR情報の見方 12. プレゼンテーション準備① 13. プレゼンテーション準備② 14. プレゼンテーション① 15. プレゼンテーション②、まとめ
授業時間外における学習方法	オンラインで確認できる地図、大手小売業の店舗のウェブサイトにあるフロアガイド、小売業・サービス業の企業ウェブサイトにある店舗検索などを授業で紹介する観点に基づいて観察・確認することを行ってください。
授業のキーワード	日本商業、小売業・サービス業、出店、立地、消費行動など
受講補足（履修制限など）	特に設けません
学生へのメッセージ	
遠隔授業形態	ライブ配信

授業科目名	日本理解H：芸術
担当教員	石井 健 (いしいたけし)
ねらいと目標	この授業科目では、書道を中心とした日本の文字文化について考察していきます。本年度は、毛筆の実技をとりまぜながら、書道や文字に関わる歴史や文化について幅広く学んでいきます。
内容	日本語と、母国語や日常生活で使用している言語で用いる文字の歴史や特徴、教育の方法の違いについて知った上で、書の歴史や筆記具の種類や製法について学び、現代日本における「手書き文字」や「筆文字」、「芸術としての書」の意義について考えていきます。また、第12回～第14回の授業では、実際に筆を執り、初歩的な書の作品制作に挑戦します。
テキスト	特に用いません。必要に応じ、資料を配布します。
参考文献	『書の古典と理論』（光村図書出版） 『書の見方 日本の美と心を読む』（角川学芸出版） 『別冊太陽 日本のこころ 191 日本の書 古代から江戸時代まで』（平凡社）
成績評価法	平常点 50% 提出物 30% レポート 20%
授業スケジュール	1 オリエンテーション 2 世界の文字と日本の文字 3 文字と書の教育 4 現代の筆記具と伝統的な書の道具① 5 現代の筆記具と伝統的な書の道具② 6 書の歴史／中国①（書の実技を含む） 7 書の歴史／中国②（書の実技を含む） 8 書の歴史／日本①（書の実技を含む） 9 書の歴史／日本②（書の実技を含む） 10 現代社会における「手書き文字」や「筆文字」の意義 11 現代日本における芸術としての書 12 書の作品を制作してみよう①（書の実技） 13 書の作品を制作してみよう②（書の実技） 14 書の作品を制作してみよう③（書の実技） 15 まとめ
授業時間外における学習方法	博物館や美術館に展示されている書の作品をインターネットでの閲覧も含めできるだけ多く鑑賞するようにしてください。また、日常生活のなかで見かける「手書き文字」や「筆文字」にも注目してみてください。
授業のキーワード	書 書道 文字文化 毛筆
受講補足（履修制限など）	書の実技を伴う授業ですので、書の道具（筆ペン、大筆、小筆、固形墨、半紙など）を個人で用意していただく必要があります。詳細は第1回の授業の際に説明します。
学生へのメッセージ	新型コロナウイルス感染症の流行にともない、例年とは異なる授業形態になりますが、WEBCLASSで提出課題を共有しながら、皆さんがこれまで使ってきた文字や日本の文字文化についての理解を深めていきましょう。
遠隔授業形態	WEBCLASSを利用してオンデマンド型の授業形態でおこないます。資料や課題をWEBCLASSに掲載しますので、授業時間やその他の都合がつく時間帯に取り組んでもらい、WEBCLASSへ提出してもらいます。

授業科目名	多文化共修科目 B： 多言語社会とコミュニケーション
担当教員	岡 智之 (おか ともゆき)
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 B「多言語社会とコミュニケーション」では、多言語多文化社会に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	本授業では、多言語主義、複言語主義のもとで、様々な在日外国人の言語使用や、琉球諸語やアイヌ語、日本手話といった国内での少数言語なども含め、なかなか触れることのできない言語について体験したり、世界各地から来た留学生や様々な地方出身の学生の言葉をお互いに学びあうこともやります。後半は、多言語社会に関する様々な課題をテーマにして、グループごとにプロジェクトを作り、最終発表を行います。ヒューマンライブラリーなどの課外活動やオンライン・ゲストレクチャーなどを計画しています。
テキスト	特に定めません。
参考文献	有田佳代子他編著『多文化社会で多様性を考えるワークショップ』研究社、2018。その他、適宜、授業時に指示します。
成績評価法	平常点 30% (毎回コメントを WEBCLASS に提出)、個人発表 5%、最終発表 30%、最終レポート 30%、課外活動+感想文提出 5%+α、最終レポートは A4 用紙 3 枚程度、締め切りは 2 月 11 日 (木) WEBClass に提出。 okatom@u-gakugei.ac.jp
授業スケジュール	1. オリエンテーション、2. 多言語社会って何だろうー多言語主義、複言語主義と言語教育、3. 在日コリアンの言語使用の実態とその背景、4. 移民の言語使用と母語教育、5. 琉球諸語と琉球文化 (ゲストレクチャー)、6. アイヌ語とアイヌ文化 (ゲストレクチャー)、7. ろう文化と手話 (ゲストレクチャー)、8. 前半振り返りとプロジェクト構想、9~11. 留学生の言語 (日本の方言) を学ぶ (個別発表)、12-14. 最終発表、15. 振り返りと全体まとめ=ワールドカフェ：多言語社会に向けて
授業時間外における学習方法	課外活動の参加と感想文の提出はセットです。後半のプロジェクト構想と発表に向け、授業外でグループが集まって、調査、準備が必要になります。
授業のキーワード	多言語主義、複言語主義、協働学習、琉球語、アイヌ語、日本手話
受講補足 (履修制限など)	留学生は、プレースメントテストで、レベル 1 とレベル 2 の学生のみを対象とします。一部レベル 3 の判定がある留学生は相談してください。
学生へのメッセージ	言語に対する好奇心を湧き立たせてください。日本人学生と交流したい留学生の積極的な参加を求めます。
遠隔授業形態	資料は WEBClass にアップします。基本的に、Microsoft teams を使って同期型の授業を行います。ゲストレクチャーは ZOOM で行います。最後の授業のワールドカフェは状況が許せば、対面で行いたいと思います。

授業科目名	多文化共修科目 D：世界の民族と文化
担当教員	ありさわ しの 有澤 知乃 arisawa@u-gakugei.ac.jp
ねらいと目標	さまざまな国や地域から来た学生が学び合い、世界の民族とその文化について多様な視点から考察できる力を身につける。
内容	世界の音楽、演劇、舞踊、宗教儀礼などの表現芸術について学びます。講義では映像を用いて具体的な事例を紹介します。ゲスト講師を招いて実演を行ってもらう場合もあります（2020年度は未定）。学生自身も講義で学んだテーマについて各自で調べ、その歴史や特徴について、小グループに分かれて報告をおこないます。それぞれの国や民族における文化の共通点や相違点についても意見交換をおこないながら考えを深めていきます。学期末にはグループごとにテーマを考え発表を行います。伝統芸能だけでなく、現代の新しい文化について発表することもできます。これまでのグループ発表で取り上げられたテーマ：国歌、音楽教育、ポップス、結婚式、葬式、成人式、仮面演劇、食べ物の祭り、伝統楽器を使った現代的な音楽、ほか。
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業の進捗状況に応じて紹介します。
成績評価法	(1) 毎回の授業への準備（課題）とグループ活動への参加状況 70% (2) レポート 30%
授業スケジュール	暫定スケジュール 1. 10/20 授業の概要説明 2. 10/27 遊び歌・子守歌 （11/3 祝日のため休講） 3. 11/10 愛の歌 4. 11/17 楽器と音楽（1） 5. 11/24 楽器と音楽（2） 6. 12/1 宗教音楽・儀礼（1） 7. 12/8 宗教音楽・儀礼（2） 8. 12/15 舞踊・演劇（1） 9. 12/22 舞踊・演劇（2）&発表の準備（1） 10. 1/5 新年を祝う行事 11. 1/12 発表の準備（2） 12. 1/19 グループ発表 13. 1/26 グループ発表 14. 2/2 グループ発表 15. 2/9 振り返りとまとめ
授業時間外における学習方法	インターネットを利用して様々な国や地域の表現芸術を調べる
授業のキーワード	民族、音楽、舞踊、演劇、宗教、儀礼、祭り、表現芸術
受講補足（履修制限など）	留学生は、原則として日本語ブレースメントテストでレベル1または2のみ受講を認めます。レベル3の場合は、会話が得意な人は受講できることもありますので担当教員に相談して下さい。
学生へのメッセージ	歌や踊りや演劇などを通して様々な文化に触れてみましょう。
遠隔授業形態	Zoom で双方向型の授業をおこないます。資料はMicrosoft Teams に掲載します。